

「胃癌、食道癌術後夜間経口栄養療法による栄養状態改善の取り組みに関する観察研究」

ご協力をお願い

1. 研究の背景と必要性

胃癌、食道癌に対する手術栄養障害が中長期予後に影響を及ぼすことが従来から指摘されており、様々な栄養治療法が報告されていますが、いまだ有用な方法がないのが現状であります。

当院では胃癌胃全摘後、食道癌食道切除後に夜間経腸栄養療法を導入し、その有用性を報告してきましたが、経腸栄養終了後(術後6ヵ月程度)に体重減少、栄養指標低下を来す患者様が一定数おられます。経口摂取に加え、経口補助食品を追加しても経口摂取ができず有用でないことも多く経験します。

そこで肝硬変患者に広く知られている就寝前捕食(LES: Late Evening Snack)に着想をえて、日中の食事に加え、夕食後から就寝前までに経口補助食品(300kcal/日程度)を摂取する方法を導入しました。これにより術後体重減少、栄養状態改善に寄与する可能性があります。

2. 実施施設および担当医師

京都第一赤十字病院消化器外科	小松 周平(責任研究医師)
京都第一赤十字病院消化器外科	小西 智規(分担研究医師)

3. 研究の方法

当科患者データベース2014年1月から2025年12月に登録された方を対象として、手術を施行した胃癌、食道癌手術症例の背景因子及び治療成績に関して検討を行います。その有用性について検討し、2025年6月からは全ての胃癌、食道癌患者様に対して観察研究を行います。

抽出するデータは、以下の通りです。

- ① 関連情報:術後退院日数、合併症、画像所見、各種血液検査データ、病理診断結果、生存や再発に関する予後情報など

データベースから(2014年1月から2025年12月)

- ② 患者基本情報:性、年齢、罹病期間、身長、体重など

本研究の対象患者のデータを、所定のフォーマット(パスワード付きエクセルファイル)で一括して管理し、データの解析は京都第一赤十字病院 消化器外科にて行います。情報は院内にて厳重に管理され、第三者への提供は致しません。本研究の結果は学会発表・医学論文として公表する予定です。

4. 患者様の利益・不利益(リスク)および同意取得

本研究では、治療上の不利益・利益は発生しない。従来の経口補助栄養剤を処方し、摂取するタイミングが違うだけであり治療上の不利益・利益は発生しない。本研究への参加に関しては、本掲示をもって文書同意に代えますが、同意いただけない場合は、研究データへの組み入れを取り消しますので、下記までご連絡ください。同意いただけない場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

5. 事務局・患者問い合わせ窓口

〒605-0981 京都市東山区本町15丁目749番地 京都第一赤十字病院 消化器外科

電話 075-561-1121(代表) Fax 075-561-6308

責任研究医師氏名 小松周平 (shuhei-komatsu@kyoto1.jrc.or.jp)